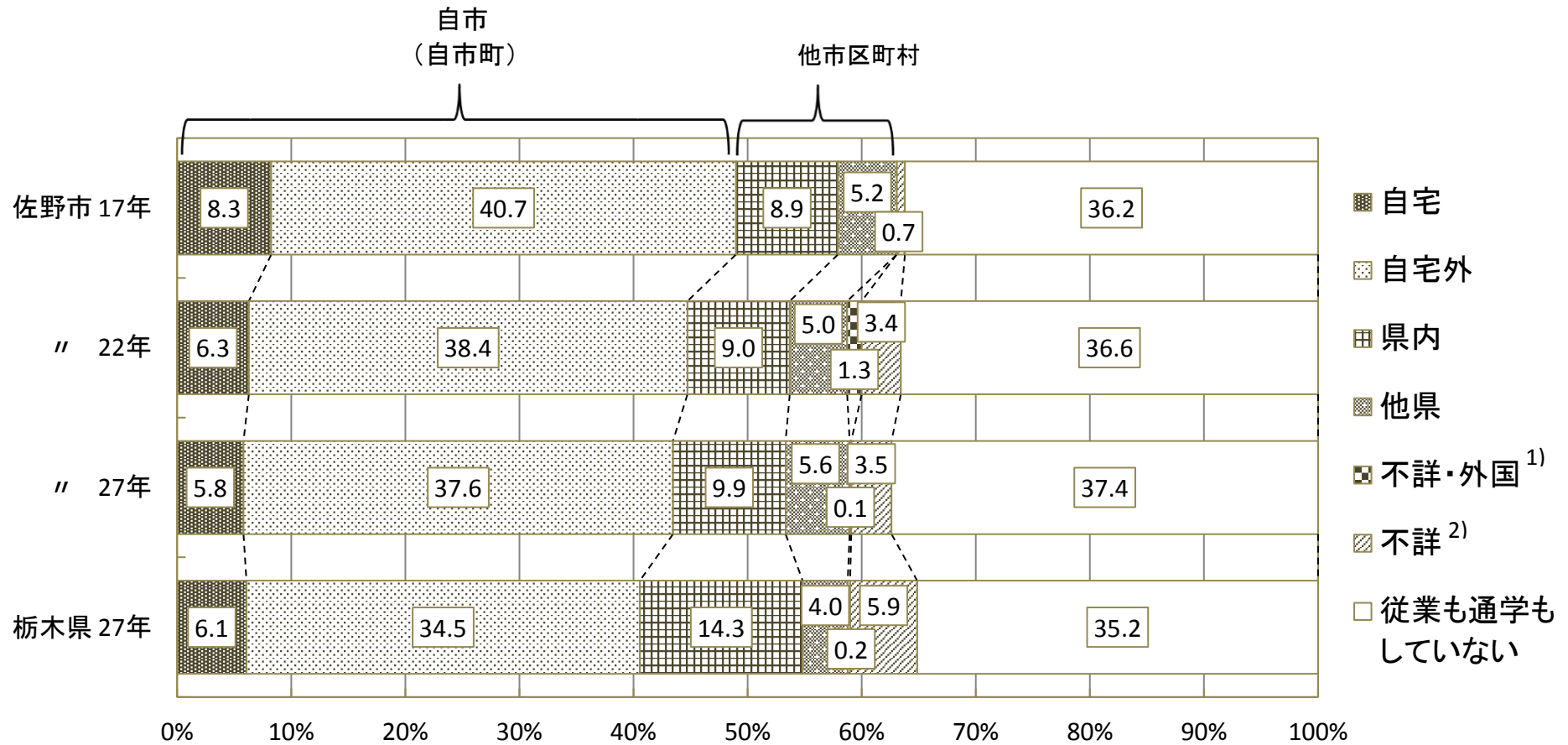


1. 従業地・通学地別人口

佐野市の人口11万8919人に占める従業地・通学地別の割合をみると、「自市」が43.5%（5万1684人）、「他市区町村」が15.6%（1万8576人）、「従業も通学もしていない」が37.4%（4万4454人）、「不詳」が3.5%（4,205人）となっている。平成22年と比べると、「自市」が1.3ポイントの減少となっている。一方、「他市区町村」が0.3ポイント、「従業も通学もしていない」が0.8ポイントの増加となっている。

栃木県と比較してみると佐野市は、「自市(町)」の割合が2.9ポイント、「従業も通学もしていない」の割合が2.2ポイント高くなっている。一方、「他市区町村」の割合が、2.8ポイント低くなっている。



1) 従業地・通学地「他市区町村」のうちの「不詳・外国」

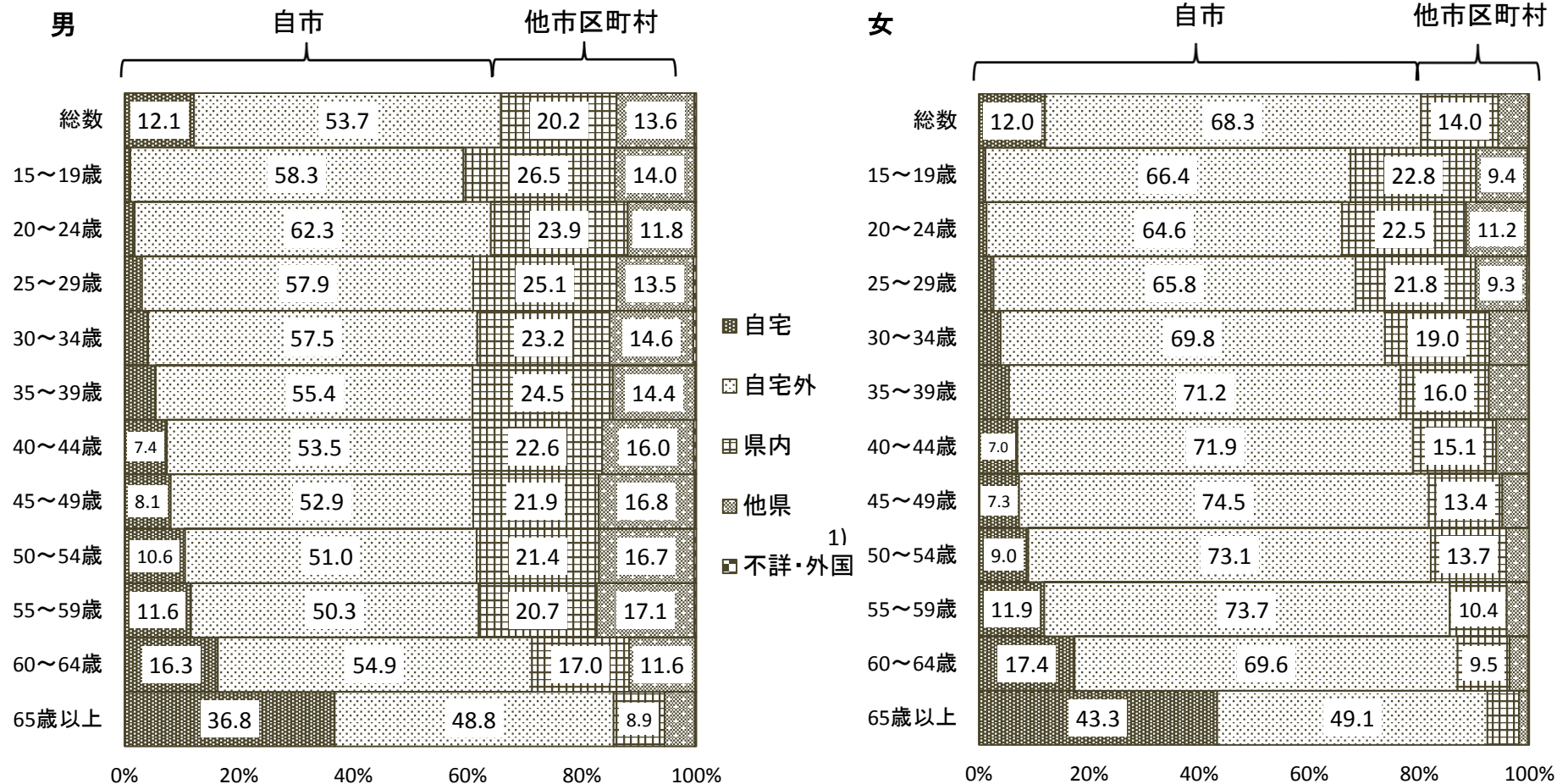
2) 平成27年・22年については、労働力状態及び従業地・通学地の「不詳」。平成17年については、労働力状態の「不詳」。

(→統計データ1)

2. 従業地別男女別就業者

男女別、年齢5歳階級別15歳以上就業者に占める従業地別の割合をみると、「自市」については、男性では65歳以上が85.5% (3,972人)と最も高く、次いで、60～64歳が71.2% (2,391人)、20～24歳が64.1% (1,015人)などとなっている。女性では、65歳以上が92.4% (2,734人)と最も高く、次いで、60～64歳が87.0% (2,014人)、55～59歳が85.6% (2,262人)などとなっている。

「他市区町村」についてみると、男性では15～19歳が40.8% (163人)と最も高く、次いで、35～39歳及び40～44歳が39.1% (1,300人及び1,517人)などとなっている。女性では、20～24歳が34.0% (470人)と最も高く、次いで、15～19歳が32.5% (111人)、25～29歳が31.6% (586人)などとなっている。

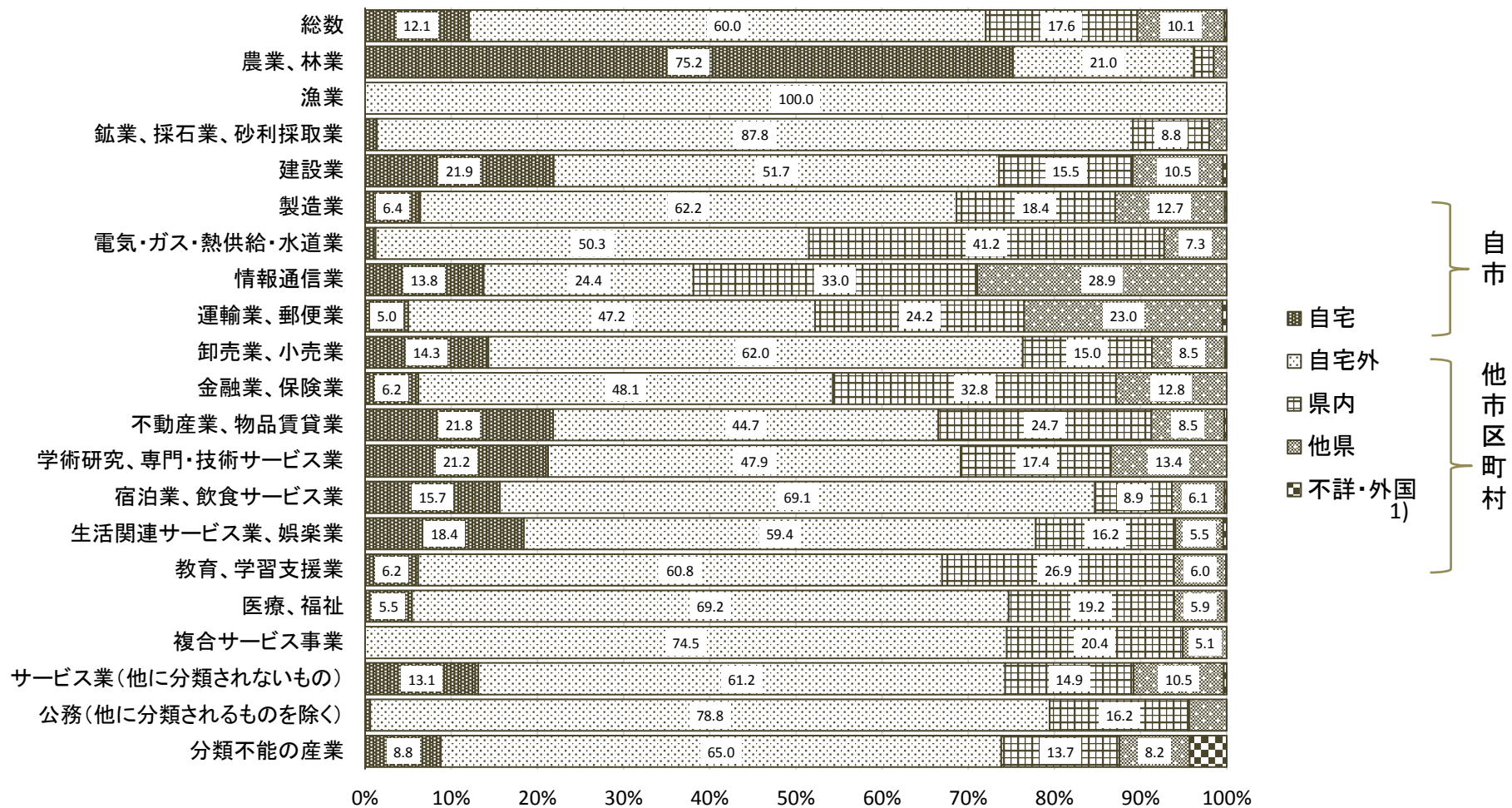


1) 従業地・通学地「他市区町村」のうちの「不詳・外国」 2) 従業地「不詳」を除いて算出している。

(→統計データ2)

3. 従業地別産業別就業者

産業大分類別15歳以上就業者に占める従業地別の割合をみると、「自市」は「漁業」が100.0%(1人)と最も高く、次いで、「農業、林業」が96.2%(1,527人)、「鉱業、採石業、砂利採取業」が89.1%(131人)などとなっている。次に、「他市区町村」についてみると、「情報通信業」が61.9%(216人)と最も高く、次いで、「電気・ガス・熱供給・水道業」が48.5%(80人)、「運輸業、郵便業」が47.8%(1,682人)などとなっている。



1) 従業地・通学地「他市区町村」のうちの「不詳・外国」
 2) 従業地「不詳」を除いて算出している。

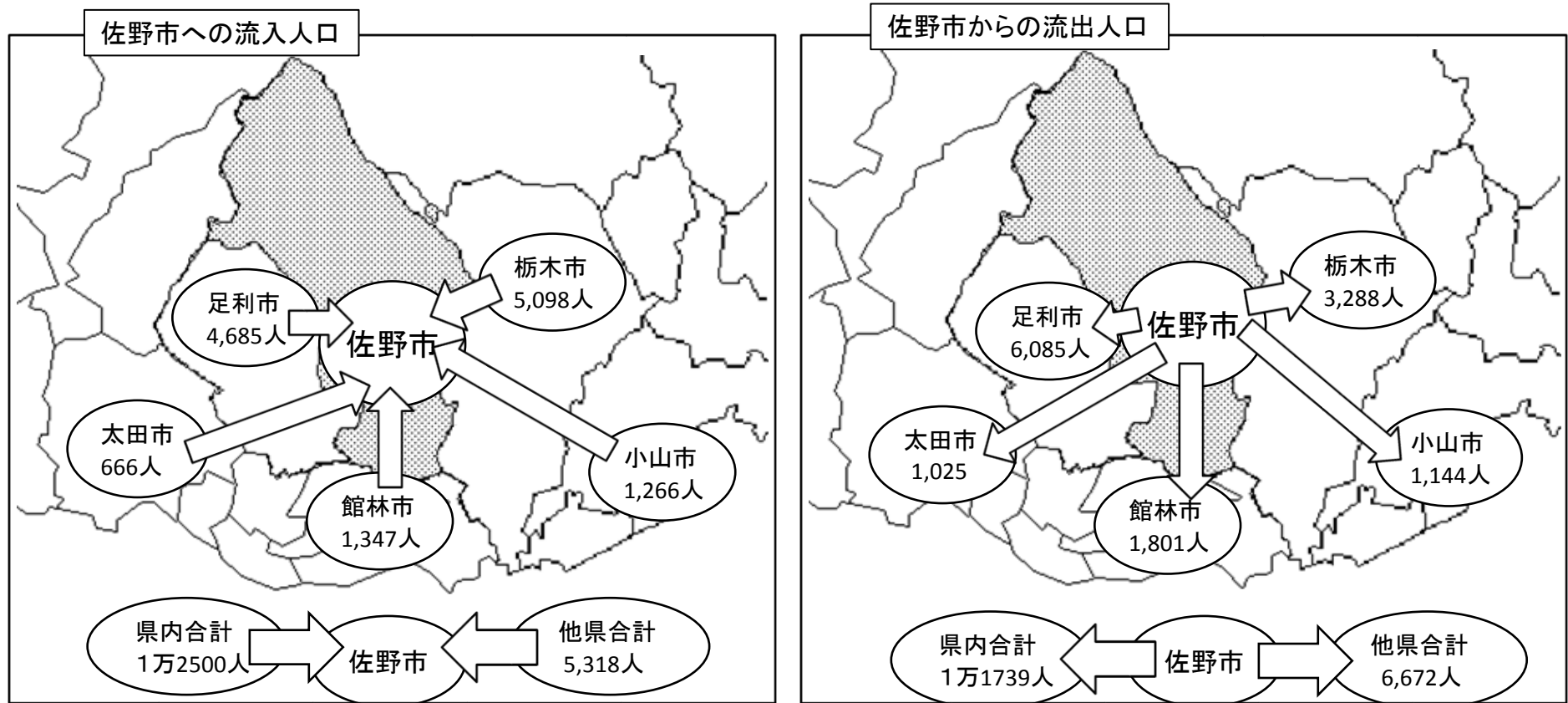
(→統計データ3)

4. 流入・流出口口

通勤・通学のため、他市区町村から佐野市に流入している人口（流入人口）は、1万7818人で、平成22年より886人（5.2%）増加している。流入人口を市区町村別にみると、栃木市からの流入人口が5,098人（流入人口のうち28.6%）と最も多く、次いで、足利市が4,685人（同26.3%）、館林市が1,347人（同7.6%）などとなっている。この3市で流入人口全体の6割以上を占めている。

通勤・通学のため、佐野市から他市区町村へ流出している人口（流出人口）は1万8411人¹⁾で、平成22年より1,427人（8.4%）増加している。

流出人口を市区町村別にみると、足利市への流出人口が6,085人（流出人口のうち33.1%）と最も多く、次いで、栃木市が3,288人（同17.9%）、館林市が1,801人（同9.8%）などとなっている。この3市で流出人口全体の6割以上を占めている。

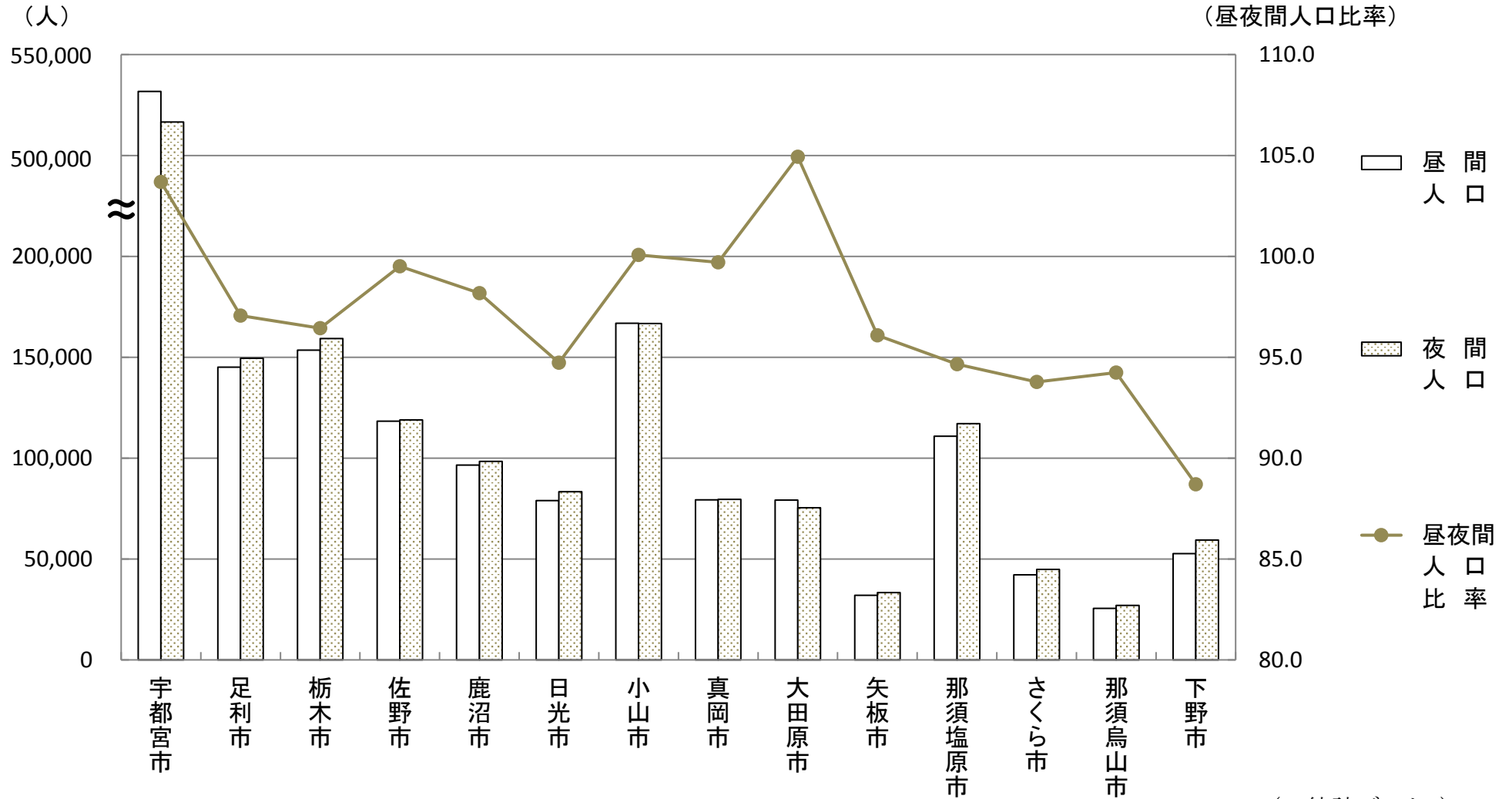


1) 従業地・通学地「不詳・外国」を除く。

(→統計データ4)

5. 昼夜間人口

県内14市部の昼夜間人口比率について比較してみると、大田原市が104.9と最も高く、次いで、宇都宮市が103.7、小山市が100.1などとなっている。佐野市の昼夜間人口比率は99.5であり、県内14市部中、第5位となっている。



(→統計データ5)